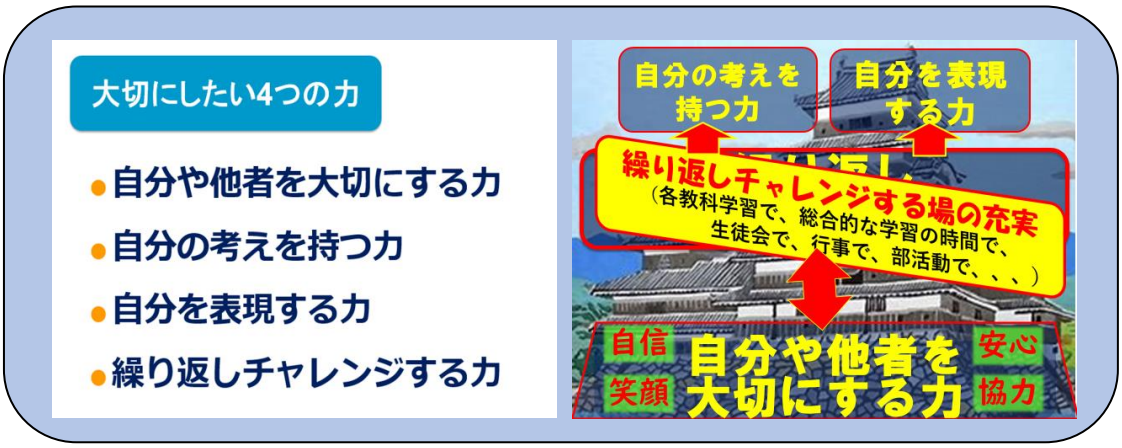
野沢温泉村幼保小中一貫教育・高校連携教育　　令和５年７月３日（通算 196 号）

山毛欅（ぶな）の子　野沢温泉学園だより第3号

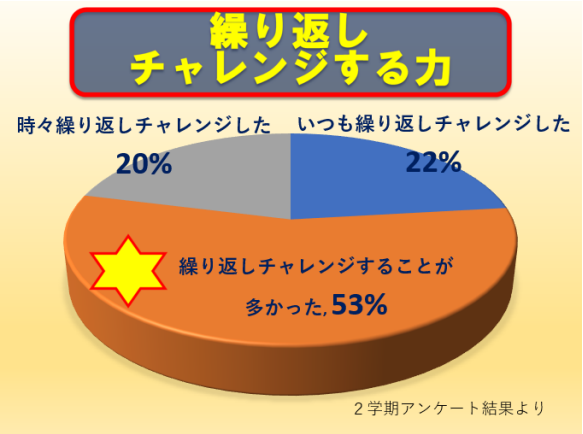
～子どもたちが、ブナ（村木）の若葉のごとく、力強くたくましく伸びてほしいとの願いを込め～

令和５年度の野沢温泉中学校は、生徒 68 名（1 年 23 名、2 年 13 名、3 年 32 名）、教職員 19 名でスタートしました。今年度は、新型コロナウィルス感染症が5類感染症に移行し、特段の感染症対策を講じることなく、日常を取り戻す毎日となっており、従来通りの様々な活動を行うことができています。授業参観日では大勢の保護者の皆様に参観いただいたり、学園授業研究会では、こども園・小学校の先生方だけでなく、外部・地域の皆様にもお越しいただいたりするなど、制限なくご覧いただく機会が持てています。また、総合的な学習の時間等に地域の方を講師としてお招きして授業を行う機会も増えています。地域のみんなで見守り育て、子どもたちの成長をみんなで喜ぶ野沢温泉村の皆様に支えられていることを日々感じております。令和5年度の教育方針と最近の様子を紹介します。



１「繰り返しチャレンジする力」がさらに伸びる野沢温泉中学校に！

令和5年度の野沢温泉中学校では、大切にしたい４つの力を掲げ、特に「繰り返しチャレンジする力」が伸びるような学校づくりを進めたいと考えております。一昨年度より「繰り返しチャレンジする場の充実」を図ってまいりましたが、本年度もさらに拡充していきたいと思います。学校生活の様々な場面で、繰り返しチャレンジすることの多かった生徒が増えている様子がこれまでの生徒アンケートから見えてきています。



また、教科学習では「友と学び合いながら自分の考えを深め・伝え合う授業づくり～繰り返しチャレンジする姿を求めて～」をテーマに各教科でその姿を決めだし、日々の授業でそのような姿が見られるよう取り組んでいきます。

2　総合的な学習の時間の充実

目指す子どもの姿を「ふるさと野沢温泉を担う人材へ」とし、3年間の学習の見通し（1学年「ふるさと」を知る・学ぶ、2学年「ふるさと」に関わる、3学年「ふるさと」を支える）をもち、各学年で設定したテーマをもとに3年間を通した学習を行っていきます。

1学年は、昔のツツジ山公園の姿を取り戻すことを目指した、ツツジ山公園の植樹活動に参加するなど、体験学習などを通して、ふるさとを知る学習を進めています。

2学年は、スキー場の歴史や村の基幹産業としての歴史を学ぶために「スキー博物館」との連携を博物館で受け入れていただいています。スキー場が開業 100 周年を迎えるにあたり、スキー博物館の展示品の整理や 100 年イベントの手伝い、そして生徒学芸員として来館者の案内などを考えています。

3学年は、村役場や商工会、村内の企業の方々の協力を得ながら「3SEEDs プロジェクト」と称して、サイダー班とフォト班と遊具班に分かれて、3つのプロジェクトの目標に向けて取り組んでいます。先日、フォト班と遊具班は材料に使う木の伐採に行きました。現場で切り倒していただいた木の皮を剥ぐ作業をしました。

3　野沢温泉中ならではの行事

40 年以上続く伝統行事の「竹の子狩り」+「竹の子汁作り」ですが、今年は4年ぶりにどちらも行うことができました。子どもたちは慣れたものでどんどんと藪の中に入りたくさん収穫することができました。その後、6年生も加わり、一斗缶で豪快に作り、一緒に竹の子汁を味わいました。「おいしい！」という声があちこちから聞こえてきました。保護者の皆様をはじめ多くの皆様の温かいお力添えで見事復活です。

今年度の千葉県御宿町との「海の子山の子」交流は1・2年合同で7月24～26日に行います。先日、お土産としてのアケビ細工を作成しました。地域の方にお越しいただき、御宿の生徒数分ができあがりました。また、従来は御宿に行ってから交流が始まりますが、互いにオンラインでやり取りができるようになり、すでに顔見知りになっている状況です。当日の交流学習を楽しみにしている子どもたちです。

村内・外の「ひと・もの・こと」とのかかわりを通して「ふるさと野沢温泉村を心に刻む」教育活動を充実させたいと考えています。

文責：野沢温泉中学校　藤井　善章